

# 加賀電子本社 屋上ビオトープ 調査・管理報告書

活動日	2023年7月10日	天候	晴れ	活動時間	11:00～12:00
作業者	久保田 潤一	報告者	久保田 潤一		
目的	生物調査 および ビオトープ管理				
内容					
<b>【作業内容】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ビオトープの写真撮影</li><li>・水深の確認</li><li>・生物調査</li><li>・外来種のチェック</li></ul>					
<b>【生物調査の詳細】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ビオトープ創出時に導入した生物(ミゾコウジュ)も含め、生息・生育状況の調査を実施。</li><li>・導入したミゾコウジュは、池の中・外ともに順調な生育を確認した。開花しており、今後結実することが期待できる。</li><li>・シャジクモがビオトープ一面に繁茂していた。本種は環境省レッドリストで絶滅危惧II類の希少種である。</li><li>・ヒメアメンボの成虫1個体を確認した。本種はビオトープ造成後に飛来したものである。6/26には3個体を確認しており、すでに複数個体が入り出しているものと見られる。</li><li>・シオカラトンボのオス成虫を1個体確認した。本種もビオトープ造成後に飛来したものである。</li><li>・シオカラトンボ属の幼虫(ヤゴ)3個体を確認した。ビオトープ造成後に成虫が飛来して産卵した可能性が高い。若齢幼虫であるため種の特定は次回調査に持ち越すこととしたが、オオシオカラトンボの可能性が高い。</li><li>・トゲバゴマフガムシ成虫を1個体確認した。本種は外から飛来したのか、土に混じっていたものかの判断が難しい。</li><li>・コカゲロウ属の一種を確認した。</li><li>・外来種は認められなかった。</li><li>・遷移段階初期の湿地環境が創出され、非常に良い状態である。まだ確認種は少ないが、水草の繁茂に伴ってトンボ類やその他水生昆虫の飛来増が期待できる。</li></ul>					
<b>【その他】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ビオトープの日当たりは良好で、水草の繁茂には申し分ない。</li><li>・水深は最浅部で1cm程度であり、良好な状態である。</li><li>・生物調査の際、調査員は池の中に踏み込まないほうがよい。泥が舞って生物の観察が難しくなるため。タモ網で池の外から掬いどりするのがよい。</li></ul>					



No. 1

撮影日: 2023年7月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ビオトープ全景。

一番浅い左側にはやや背の高い草が、それより右のエリアには藻が繁茂しているの見える。



No. 2

撮影日: 2023年7月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ビオトープ創出時に株移植を行ったミゾコウジュ(環境省: 準絶滅危惧、都: 絶滅危惧II類)が順調に生育し、開花していた。



No. 3

撮影日: 2023年7月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ビオトープのほぼ全域に繁茂していたシャジクモ。環境省レッドリスト及び東京都レッドデータブックで絶滅危惧II類の希少種。



No. 4

撮影日: 2023年7月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

シオカラトンボ属のヤゴ。3個体確認した。まだ幼齢で特徴がわかりづらいが、オオシオカラトンボである可能性が高い。ビオトープ創出後に成虫が飛来し、産卵・孵化したものであると考えられる。



No. 5

撮影日: 2023年7月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

飛来したヒメアメンボの成虫。



No. 6

撮影日: 2023年7月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ヒメアメンボの顔。ストロー状の口吻が見える。



	<p>No. <u>7</u></p> <p>撮影日: 2023年7月10日</p> <p>撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ</p> <p>解説 コカゲロウ属の一種。</p>
	<p>No. <u>8</u></p> <p>撮影日: 2023年7月10日</p> <p>撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ</p> <p>解説 トゲバゴマフガムシ。本種は外から飛来したものか、土に混じていたものかの判断が難しい。</p>
	<p>No. <u>9</u></p> <p>撮影日: 2023年7月10日</p> <p>撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ</p> <p>解説</p>

加賀電子本社屋上ビオトープ 確認生物リスト

分類	種名	経緯 ※別表1	希少性 ※別表2		外来種	備考	確認記録 2023年度		
			環境省	東京都 北多摩			7/10		
昆虫類	ヒメアメンボ	自然飛来				6月の記録も含めると複数個体を確認	○		
	シオカラトンボ	自然飛来				成虫を確認	△		
	シオカラトンボ属の一種	自然飛来				繁殖を確認	○		
	コカゲロウ属の一種	自然飛来					○		
	トゲバゴマフガムシ	不明				由来は不明	○		
植物	ミゾコウジュ	導入	NT	VU			○		
	シャジクモ	発芽	VU	VU			○		
	カヤツリグサ科の一種	発芽					○		

※確認記録

○:調査で確認

△:聞き取り等で確認

別表1 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの
発芽	ビオトープに導入した土から自然に発芽した植物

別表2 希少性の表記について

表記	カテゴリー名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下も含めすでに絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
.	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの